

つくばみらい 相談事例

着衣着火

★ 着衣着火が危険だと聞きましたが、どういうことでしょうか。

着衣着火とは、調理中のガスコンロやストーブなどの炎が、着ている衣服に着火することをいいます。「消防白書」によると、平成 25 年中の全国の着衣着火による死者数は 121 人で、火災の中で 2 番目に多い死者発生原因です。

高齢者が着衣着火の被害にあった場合、受傷程度が重くなる傾向があります。原因として、加齢による身体能力の衰えに加え、目の老化などで炎が見えにくくなることがあげられます。

ガスコンロなど火を取り扱う際は、袖口や裾が広がっている衣服を避け、火力を適正に調整しましょう。

また、生地が起毛している衣服に着火すると、瞬時に生地表面に火が走る「表面フラッシュ」が生じることがありますので、燃えにくい衣類を身につけることも大切です。燃えにくい衣類として、公益財団法人日本防災協会が認定している防災製品があります。詳しくは、防災協会のホームページをご参照ください。